札幌市中小企業振興審議会

会　　議　　録

日時：平成２１年１１月２４日（火）
場所：札幌市民ホール２階　第２会議室

１．開会

〇事務局（角田経済企画課長）　札幌市中小企業振興審議会を開催させていただきます。

私、経済局産業振興部で経済企画課長をしております角田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、委員の皆様、お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。大変恐縮ではありますが、座ってお話をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

本日、事前に連絡させていただきましたところ、15 名の委員の皆様にご出席いただけるということで、開催させていただいております。

なお、本日は大谷委員、菊嶋委員、松本委員、田村委員につきましては、あらかじめ欠席される旨のご連絡をいただいております。それから、若干遅れるという旨のご連絡を４名の委員からいただいております。まもなく到着すると思いますので、よろしくお願いいたします。

次に配布資料でございますけれども、本日は事前に各委員の皆様にお送りさせていただいております資料を使って、審議していただきたいと思います。もし足りない資料等がございましたら、事務局の方まで申し出ていただきたいと思います。

資料でございますけれども、まず、資料１としましては、「札幌市産業振興ビジョン全体構成（案）」、２つ目の資料といたしまして「札幌市産業振興ビジョン骨子（案）」、それから資料３といたしまして「参考資料」、これは基礎調査のデータ集でございます。そして資料４としまして、「ものづくり産業の現状と施策」、それからスケジュールを添付させていただいております。

以上、資料でございますけれども、もしお手元に資料が揃ってないようでしたら、事務局までお知らせいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、これより後の議事運営につきましては、小林会長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

２．議事

〇小林会長　では、早速、議事に入らせていただきます。

本日の議題は２つございまして、一つは「札幌市産業振興ビジョンの骨子（案）について」、もう一つが「ものづくり振興戦略の諮問について」となっております。

まず１つ目、「札幌市産業振興ビジョンの骨子(案)について」事務局の方から説明をお願いいたします。

なお、皆様のご意見・ご質問につきましては説明が終わりました後にお受けいたします。ご協力のほどお願いいたします。

では、よろしくお願いいたします。

〇事務局（渡辺産業振興部長）　産業振興部長の渡辺でございます。

大変恐縮ではありますが、座って説明させていただきたいと存じます。

「札幌市産業振興ビジョンについて」でございますけれども、前回６月末に審議会を開催させていただきまして、その後、庁内関係部局での議論を重ねまして、本日の骨子案を作成させていただいたところでございます。その際、当審議会から意見をいただきましたところでございますけれども、区役所を所管する地域振興部を関係部に加えまして議論をしてまいりました。本日は現時点での素案のご説明をさせていただきたいというふうに思っております。

ビジョンの作成にあたりましては、本日皆様からいただくご意見や現在進めているアンケート調査の分析を含めた調査結果を反映させた形で、来年３月頃に審議会を開催させていただきまして、産業振興ビジョンの素案について、ご意見をいただきたいと考えております。

さらに、前回もお話をさせていただいたところですが、札幌市出身または札幌市内の勤務経験があり、道外で活躍をされていらっしゃいます有識者の方々からのアドバイスをいただきながら、進めてまいりたいと思っているところでございまして、３名の方から快諾をいただいているところでございます。

まず、前日本銀行札幌支店長で現在、岡崎信用金庫常務理事の上野正彦様、それから前株式会社 JTB 北海道の代表取締役社長で現在、株式会社 JTB グループ本社執行役員の髙橋威男様、そしてもう１名につきましては、札幌市出身で現在メリルリンチ副社長の竹田勝男様でございます。

竹田様につきましては、ニューヨーク在住でございますけれども、札幌にお帰りになった際や、Ｅメールのやり取り等で、ご意見をちょうだいしたいと思っているところでございます。

こうしたことを踏まえまして、道外から見た札幌という視点から、参考意見をいただきながらビジョンの素案をまとめてまいりたいというふうに考えているところでございます。

それではビジョンの全体構成案・骨子案につきまして角田経済企画課長からご説明をさせていただきます。

〇事務局（角田経済企画課長）　それでは、私の方から今回のビジョンの全体構成案、それから骨子案につきまして簡単にご説明させていただきたいと思います。

だいたい時間は 15～20 分くらいの時間でご説明させていただきたいと思います。

この案につきましては、前回の審議会でのご意見、庁内での関係会議を踏まえまして、素案を作ってございます。これは、あくまでも素案でございますので、まだ中身につきましては、今後皆様に議論していただいて、いろいろと修正なり、あるいは新たな方向や、別な視点といったところのご意見をいただいて、また考えていきたいと思います。あくまでも素案ということでご理解いただきたいと思います。

まず、資料１の「札幌市産業振興ビジョンの全体構成（案）」につきまして、ご説明させ

ていただきたいと思います。

まず、ビジョンの第１章でございますけれども、このビジョンの基本的な考え方について第１章でまとめさせていただきたいと思います。

まず、背景と必要性について４点書いてございます。これはすでに皆様ご存知かと思いますけれども、経済や社会環境が大きく変化する中で、北海道・札幌の経済も非常に厳しい状況にあるという背景をここで書かせていただいております。

それから本市の経済は消費都市とよく言われますけれども、人口の増加に比例して成長してきた、ただ今後は人口減少の時代に突入しようとしていることをきちんとこの場で認識したいと考えております。

それから、こういった変化に対応して、足腰の強い経済基盤、これはいわゆる札幌らしさ、札幌の特性を活かした札幌ならではといったような観点から経済基盤を確定していく必要があると認識しております。

それから、本市経済を取り巻く環境の変化、あるいは実体経済の動きを的確に捉えて、やはり中長期的な視点から本市が目指す方向性、それから我々行政からみた役割をビジョンの中できちんと明確にしていきたいと考えております。

続きましてビジョンの位置付けですけれども、まず、１つ目は第４次札幌市長期総合計画、これは平成 12 年 1 月に策定されておりまして、平成 32 年を最終年度の目標にしております札幌市の長期計画ですけれども、この長期計画の方向性を踏まえた産業振興分野の今後の展開を示したいと考えております。

それから、本市では、経済以外にも福祉、文化、観光あるいは色々な分野での様々な中期計画を策定しておりますけれども、こういった他の計画との整合性、それから連携を図っていきたいと考えております。

それから、このビジョンに基づきまして、多様なセクションが関係してきますが、できれば毎年度の予算において、全庁的なセクションの中で具体的に事業化をしていきたいというふうに考えております。

それから最後ですが、これは 10 年先を見据えた計画ではありますが、当然社会状況の変化等いろいろな変化が生じてくると思いますので、そういった場合につきましては決して 10 年間１回も改定しないという事ではなく、やはり柔軟に、状況に応じて中身を見直していきたいというふうに考えております。

それから基本的な方針ですが、まず札幌広域都市圏として取り組むということです。これは従来からご説明しておりますが、札幌だけではなく札幌の周辺の市町村と一緒になって経済振興を図っていく必要があるという視点でございます。

２つ目としましては、北海道経済の牽引役として札幌がその役割を果たしていくということです。

３つ目といたしまして、札幌市内の９割以上を占めます中小企業の皆さんの創意工夫と中小企業の皆様の自主的な努力を尊重する必要がございます。

４つ目といたしまして、産学官の連携を図っていくということです。

５つ目といたしまして、１番目、２番目の広域都市圏また北海道経済の牽引役ともかかってくるのですけども、国や北海道等の関係機関と連携を図っていくということを基本方針にしたいと考えております。

第２章につきましては、現状分析と課題について盛り込んでいきたいと考えております。

まず、現状分析ですが、すでに皆様に一部でございますけれどもお配りしておりますが、基礎調査あるいはデータといったものを現状分析の中に盛り込んでいきたいと思っております。

まず１つ目は、札幌市の人口構造、そして２つ目が都市・地域構造、３つ目が産業の特性、そして４つ目が歴史的な経緯あるいは札幌・北海道の地域性といったものについて、現状分析をここでしっかりしていきたいというふうに思っております。現状分析と申しましても、これは、前回の審議会でもご議論いただきましたが、やはり札幌らしさ、札幌の特性、札幌の持っているものの棚卸しをこの現状分析の中で、しっかりとしていきたいと思っております。

また、それに対応する形で、その分析の結果、どういった課題が今考えられるかということです。今、私どもで整理をさせていただいている課題を、大まかに分けますと、４つでございます。

１つ目が人口減少にどう対応していくか、２つ目が少子高齢化にどのように対応していくか、３つ目がこれは札幌の大きな問題ではありますが、若年層の流出です。特に北海道から道外への若年層の流出というのが大きな問題となっておりますので、そういった流出をどのように食い止めていくか、あるいはその逆にどのように労働力人口を外から確保するかというような事を課題として取り上げていきたいと考えております。

それから、ものづくり産業の脆弱性ということですが、雇用の創出効果が大きく、裾野が広いものづくり産業は、産業構造を見ますと、決して強い状況ではありませんので、これをどのように強化していくかを課題として取り上げていきたいと思っております。以上が第２章の札幌市産業の現状と課題についてです。

続きまして第３章でございますが、こういった現状分析・課題に基づきまして、札幌市として 10 年後にどういった産業の振興を目指すのかといったことを、第３章にまとめさせていただきたいと思っております。

やはり、まず１つ目は、札幌の経済を支えている中小企業が時代の変化に対応しながら北海道経済を活性化させていく、そういったようなことを目指していきたいと考えております。

それから２つ目が、札幌広域都市圏を中心に、道内の産業間の結びつきが強まって、そして更には道外、世界に躍進する企業が札幌で活躍するというようなことを目指していきたいと思っております。

それから３つ目といたしましては、国内外から人や企業が集まり、活発な交流活動が生

まれることによって経済の活性化を高めて経済力を高めていきたいと考えております。人、モノ、情報、そういったことが行き交うことによって経済力を高めていきたいと考えております。

４つ目ですが、札幌の特性、例えば積雪寒冷とか北海道や札幌が持つ資源を活かして、事業展開に新たな付加価値が創造されるような産業を目指していきたいと考えております。

５つ目が、市民生活に直結した産業を振興することで地域の賑わい、それから市民の安全・安心を確保するとともに豊かな暮らしを確保したいと考えております。これは、例えば、商店街ですとか、いわゆるコミュニティビジネスといったような市民の身近な地域での産業活性化によって地域の活性化を図っていきたいということでございます。

以上５つのポイントにまとめましたけれども、こういった姿を 10 年後目指して、従来からご説明させていただいております雇用の確保・創出、それから企業・就業者の収入増加、そして最終的には税収増加による市民サービス向上といったものを具体的な目標として設定していきたいと考えております。

それから第４章でございますけれども、こういった 10 年後の札幌の姿を目指して具体的にはどういった視点に着目をして、これから政策を展開していったら良いのかでございますけれども、これは前回の審議会でも説明させていただきましたが、大きく分けて２つございます。

１つ目が道内需要の拡大ということで、やはり北海道内での企業の取引の拡大、あるいは地産地消とよく申しますけれども、道内で消費して、道内の消費を拡大することによって、域内循環を高めていくというものです。

２つ目が道外需要の創出といったことでございますけれども、道外市場の開拓、あるいは観光産業を中心としまして、外から人に来てもらってお金を落としてもらうということで、道内需要と道外需要の両面から札幌の 10 年後の産業を指していきたいと考えております。

そして第５章、ここが一番大きな重要なポイントとなると思いますが、具体的にどういったことを施策展開の方向性としていったら良いのかということを、現時点の私どもの考え方としてまとめさせていただきました。

大きく分けて、１．社会情勢の変化に対応する、２.北海道・札幌広域都市圏の強み・可能性を活かす、３．ものづくり産業の育成・強化、４．中小企業の経営基盤強化という４つに分けて施策の方向性を示していきたいと考えています。ここは次の資料で具体的にご説明させていただきたいと思います。

資料２でございますけれども、「札幌市産業振興ビジョン骨子（案）」というのがございます。こちらの方に全体構成で簡単に申し上げました部分を、個々に具体的に説明させていただいております。イメージといたしましては、最終的な産業振興ビジョンはこの骨子案に肉付けをしていって、これを１冊の冊子にしていくというイメージでございます。

第１章から第４章までにつきましては、今、私の方で基本的な考え方、産業の現状・課

題、それから目指す姿、そして施策展開に向けた視点ということで、簡単にご説明させていただいた部分が盛り込まれておりまして、今回ご説明させていただきますのは、７ページ第５章の施策展開の方向性でございます。先程申し上げました４つの項目のうち、第１項目が社会情勢の変化に対応するということで、これを１つの施策の方向性ということで考えております。

まず、（１）人口減少への対応というところでございます。こういったことを具体的にどのように考えていくかということでございますけれども、例えば、移住・二地域居住等の促進により、消費人口、労働力人口の増加を図っていく、これは札幌の独自性など札幌のイメージが重要ではないかと考えております。先程の資料３の最後のほうにも付けさせていただいていますが、例えば2007年住みたい街ランキングでは札幌は３位、2009年度の魅力的な街のランキングでは第２位、ということで札幌の全国的なイメージは非常に良いということを活用して、二地域居住・移住といったことをこれから促進できないか、というものです。それによって消費人口・労働力人口の増加を図っていくことはできないだろうかと考えております。

２つ目といたしましては、道外・海外の新規市場開拓に向けた販路開拓支援を行うというものです。

３つ目としましては、新分野進出支援による、新たな市場の開拓というもので、黙っていたら人口がどんどん減っていくという状況の中で、やはり、人を呼び込む、あるいは新たな市場への展開といったものを図っていく必要があるのではないかというふうに考えております。

（２）少子高齢化への対応としましては、女性・シニア層の雇用機会創出による労働力の確保ということで、例えば、札幌の場合ですと、他の政令都市と比べると女性の人口の比率が高いというデータがございます。そういった中で札幌の特性を活かした雇用創出といったものを今後どう展開していくのか、という事をここで考えていきたいと思います。それから高齢化社会の到来に対応した医療、福祉、健康サービスの提供ということで、シルバー産業といわれるものを地域に根ざして、どのように今後振興していくのかということがここで１つのテーマになるのかと思います。それから札幌市内の地域構造の変化に対応したコミュニティビジネスやソーシャルビジネス等生活関連サービス分野の振興です。先程申し上げました商店街振興ですとか市民の皆さんの身近な地域の活性化に基づく産業振興を今後どのようにしていったら良いのかという事をここで少し考えていきたいと思っております。

（３）グローバル化への対応ということで、アジア・ロシア等での急速な経済成長に対応した海外戦略支援ということです。北海道・札幌の地理的な有利性として、北東アジア、ロシアと近接しているということがあり、今後、北海道・札幌は東京に向けてだけではなくて、直接海外に向けてどういったビジネスの戦略ができるのかといったことをここで考えていきたいと思っております。

それから、（４）環境配慮型社会の実現の必要性についてです。地球環境・都市環境の保全と産業振興の両立ということで、これはよく環境産業として括られてしまうのですが、私どもが議論している中では、環境産業という分野がなかなか限定できませんので、あらゆる産業の中で環境に影響すると言いますか、地球環境・都市環境の保全といったものに寄与する産業振興とはどのようにしていったら良いのかというようなことをここで考えていきたいと思っております。

２つ目に北海道・札幌広域都市圏の強み・可能性ということで、（１）食関係については、食料自給率が高く、食料基地としての北海道の機能強化や、北海道の素材を活かした機能性食品・化粧品分野の振興、観光・医療・健康・バイオなど異業種との連携による新しい展開、道内最大の消費地札幌での道産食品消費、また、効果的・効率的な道外・海外販路拡大方策、それから、アジア・ロシアを中心とした海外戦略です。やはり従来、北海道は素材の供給地であったのですが、今後は素材の供給だけでなく、強みである素材に付加価値をつけて、いかに北海道・札幌の産業を振興していくかというようなことを食関連分野のところでまず考えてみたいと思っております。

それから８ページ目でございますけれども、（２）観光関連分野についてです。これは昨今、中国からの観光客の一般観光ビザが解禁されたということで、例えば潜在的に需要が高い中国からの観光客をどのように札幌・北海道に呼んで、観光振興を図れば良いのか、ということも含めて国際観光都市としての位置づけの強化を図って行きたいと考えております。それから食、スポーツ、文化芸術といった振興策との連携のほか、交通インフラを含めたインフラが集中しているという札幌の優位性を活用して、観光分野を振興していったら良いのではないかということです。

それから広域都市圏の連携ということで、札幌にないものをどのようにするかという視点です。次の美容・健康サービス産業、これは札幌らしさということで挙げております。広域都市圏の連携観光によって、札幌にないものと札幌の強みをお互いに補完しあいながら、地域として観光振興を図っていく必要があるのではないかということが、ここのテーマでございます。

それから（３）スポーツ関連分野ということで、雪国としての特性を活かしたウインタースポーツ、また、プロスポーツを軸とした産業活性化、それから高齢化社会を意識したスポーツ産業ということです。ウインタースポーツですが、札幌はオリンピック、ユニバーシアード、アジア大会、ノルディックといったような世界規模の大会をこれまで開催してきたウインタースポーツのメッカとして、例えばそういったスポーツによって産業振興を図れないか、集客交流・イベントも含め、あるいはその高齢化社会のための健康づくりといったスポーツ産業の振興というのができないかということを少し考えてみたいと思っております。

それから（４）文化芸術関連分野としましては、施設やイベントといったものを活用して観光客、市民の皆様も含め、集客交流の活性化ができないか、あるいは芸術文化が持つ

創造性、札幌は創造都市として宣言していますが、例えば、映画など、自由な発想・活動による産業振興というようなことがこれからできるのではないかといったことを提案していきたいと思います。

（５）バイオ関連分野でございますけれども、ここは北海道の優位性、北海道の素材を活かした、例えば機能性食品・化粧品といったもの、あるいは研究機関の集積を活かした医療・医薬といったものを活用したいわゆるバイオ産業の振興について述べたいと考えております。

それから（６）ＩＴ関連分野でございですけれども、もうすでに 2007 年には 3,663 億の売上を上げておりますＩＴ分野ですが、こういった人材企業の集積を活かし、更に北海道の優位性を活かした、他の産業との連携を図ったＩＴ産業の振興といったものを今後目指していってはということで、テーマとして取り上げたいと思います。

それから（７）コンテンツ関連分野ということで、先程の文化芸術関連分野にも関連付きますけれども、クリエーターの人材集積を活かし、例えば、映像関連分野を中心とするコンテンツによる振興、といったものを今後の施策の展開として考えられると思っております。

それから３つ目といたしまして、ものづくり産業の育成・強化です。ここであえてものづくり産業ということをピックアップさせていただいておりますけれども、やはりその背景には、雇用創出効果が高く、他産業への波及効果が大きい分野であるということから、広い意味で多少捉えて、製造業・バイオ・ＩＴ・コンテンツ、こういった産業の振興に今後努めていくというものです。

また企業誘致、ものづくり企業の戦略的な誘致を行うことで、企業の集積、雇用の創出を図っていくということで、ものづくり産業の育成強化という方向性をまとめさせていただけないものかと考えております。

そして４つ目ですが、中小企業の経営基盤強化ということで、（１）人材育成、（２）人材活用、（３）融資・金融相談、（４）経営アドバイスを挙げています。札幌の９割以上を占めます中小企業の経営基盤強化のために、行政として支援をしていくという施策の方向性が必要であろうということで、４番にまとめさせていただきたいと思っております。

以上、雑ぱくではございますけれども、私どもが現在素案として考えております産業振興ビジョンの構成案とビジョン骨子案をご説明させていただきました。よろしくお願いいたします。

○小林会長　ありがとうございました。それでは、ただいま事務局から説明がありました内容につきましてご意見・ご質問を聞かせていただきたいと思います。委員の皆様は日々の活動を通じて、お考えになっていることや、皆様の経験・見識、そういった事からご意見やご提案などもいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。何かございませんでしょうか。

○三神委員　全体の構成の問題なのですが、まずこれが基盤になると思いますので、最初に質問させていただきます。この素案を見ていますと、最終的にものづくり戦略の方に走るという感じに見えます。これが 10 年後のビジョンですから、ちょっと形態としてはおかしいのではないか。それで、衰退産業といわれるのは良いのかどうかわかりませんけれども、全産業の網羅されたものでなければ、産業ビジョンといえないと思います。それで最終的に重点的にはああですよ、こうですよということですけれども、建設業も、卸や小売も入ってない。そういうような形態になっているようにみえます。

結局、今、雇用で大変大きいウェートを占めているところはそのままで良いだろうと、弱いところだけ今は強くすれば良いと、こういうような感じにならないようにしてほしいのです。全体を網羅してかつ、衰退していく雇用の大きな既存産業をどう歯止めをかけのか、盛り上げるのか、この辺はすごく重要な要素だと思います、逆にいえば、ものづくりだけやって何か効果があって、他の産業に非常に波及効果があるというふうなことが私には良くわからないんです。すべての産業をしっかりと捉えて、それをどう 10 年後まで進めていくかということをやってもらいたい。そうしないと、そちらの方の労働人口が減って、ものづくりだけが生きても、相殺したら結果的には人口減少に歯止めをかけられなかったというようなことになるような感じがするのですが、その辺のところはいかがでございますか？

○事務局（角田経済企画課長）　私の説明が悪かったのかも知れません。ものづくり産業の育成強化ということで、ここで 1 つ方向性としてある程度出していますが、実は、決してものづくりだけの部分をどうするかというだけではございませんで、たくさんの施策展開の方向性という中で、人口減少の対応、少子高齢化の対応、グローバル化の対応といったようなそれぞれの部分で、当然、サービス業も含め色々な産業についても、今後どういったような方向性で産業振興をしていったらいいのか言及したいというふうに思っております。

ただ北海道、札幌の強み可能性を生かすという部分で、（1）～（7）まで出させていただいておりますが、基本的にはそれぞれの産業について、今後どういう方向性を持っていったらいいのかというのを書かせていただきたいと思っております。

だだ、今後どういうところを重点的にやっていったらいいのか、重点産業についてこれからもっと深めていった方が良いのか、あるいは、あらゆる産業について、それぞれ一つ一つ言及していったら良いのかというのにつきましても、審議会の皆様にご意見をいただきたいと思っております。素案としましては、２番で北海道の強み・特性ということで、それぞれの分野について言及していますが、これは分野なものですから、例えばスポーツ分野でも、製造業、小売業、卸売業というのは関連しますし、決して産業分類に着目して分けておりませんので、色々な産業の今後のあり方について、取り上げることが出来るのかと考えております。

○小林会長　というお答えですが、いかがですか。よろしいですか。はい、どうぞ。

○三神委員　是非入れてください。全体にわたって。お願いします。
○大嶋委員　どうしても行政が作るこういう計画は、中小企業全体を平等にしなければならないという考えが頭の片隅にあるのだろうと思うのですが、私も実際に役人をやってきましたので、そういう経験がある訳です。広く平等に扱わなくてはならない、どうしてもそういう傾向にならざるをえない。しかしながら、やはりそこをいかに払拭して、ここに基本方針に中小企業等の創意工夫と努力を尊重するとありますが、特定の今後成長が見込まれる分野、企業にその多様な支援を当てるかというのが肝心です。それを広く市民、それから当然、計画を作って色々な事業をやると、市議会の先生方の対応も色々あると思いますが、その辺をいかに理解していただくかというところがポイントではなかろうかと思うのです。

やはり実際の計画は、どうしても平べったいものになるのかもしれませんが、具体的に実行する場合については、やはり全部平等にやるというのは無理だと思います。全体的に底上げするような金融対策などはいいと思います。全体的に平等にやる分野は、どういう支援をするかということを考えるべきですが、それだけでは不十分だと思うのです。やはり、市の産業振興をいかに活かすかということは、どこの分野をやるか、それから具体的に言いますと、どこの企業に光を当てるか、それは当然その業種のやる気のある経営者が何人かいましたら、そのグループで将来に向かって色々支援をするという具体的な形でやっていかないと、振興策としては無理じゃないかと思います。やはりどうしても役人が作りますと平等になりがちで、企業の皆さんにみんな平等に支援したいと思うのですが、それでは、振興という観点から、なかなかうまくいかないと思います。その辺だけは、この計画の中でうたうかどうかは別ですが、実際の実行にあたっては、その点を留意していただければと思います。

私の方は中小企業の立場として、みんな平等にやっていただきたいのですが、やはり実際の振興にあっては、やる気のある企業で、特にどの分野を活かすか、その分野についてどこの企業を重点的に活かすかということも、やっぱり考えていかないといけないと思います。
○三神委員　これは 10 年計画ですよね。ものづくり戦略は今やろうとしているのですが、これは単年度ですよね。ビジョンというのから離して考えていくような形をとらないといけないと思う。だから、全体を私は網羅すべきだと思う。そういう場合は、結果的にやらないかわからないけれども、10 年後にはこうしたいとあるべき姿をやっぱりここで夢を描かないといけないと思います。そういう夢を中小企業の経営者に与えるべきだと、ビションというものは、そういうものだと私は思うのです。だから、あまり偏りすぎないように、私は進めた方がいいと思うし、当然、市議会で審議されますからこれはひっかかりますよ。
○小仲委員　私はどちらかと言うと、今、三神委員かおっしゃったように既存の中小企業はどうするのかと、既存の中小企業に脚光を当てて、そこの支援を底上げしてあげなければ、やはり全体の産業構造というのは良くならないと思います。ましてやこの産業ビジョ

ンは10年間で、10年間に様々な経済が変化する中で、やはりいま産業を支えている中小企業に日の目をあたるような部分、この7分野は現在脚光を浴びている産業でしょうけれども、実際にはここに環境産業が入っていない、また既存の中小企業が入っていない。それは、前回作りました中小企業振興条例ともリンクしない、そういったことに当てはまるんじゃないかと思います。

ですから、まんべんなくどこにでもわけ隔てなくということよりか、全対象にしてその中でピックアップするべきものは、この7分野という規定を外した中で、既存の中小企業で特に頑張っている企業が沢山あるのに、この分野にどこにも入らないということになると、この分野に限定するということは、ちょっと冒険がありすぎるのではないでしょうか。

○大嶋委員　中小企業の支援策はみんな平等なんです。金融もそうですし、色んな相談業務だとか、色んな市の支援は平等に扱っていると思います。ただ、今後の札幌市の産業全体を考える場合にはやはり重点的な業種で、それを札幌市のメインにしていくという考えも一つの考えだと私は思います。

それはやはり平等に平均的にやるというのは、中小企業の立場から言うとありがたいのですが、果たして市の産業振興施策というか、今後、札幌市のことを考えた場合にそれだけではやはり不十分だろうと思います。特定の分野に光を当てて、この分野を札幌の中心的な業種ですとか、リーディングカンパニーに育て上げて、それらを進歩的なものにするというのも一つの考えだろうと思います。それは意見の相違があるかもしれません。

本当は私の立場で言うと、平等にやっていただきたいのですが、各地域の産業振興の施策なんかを見ていますと、それだけではやはり不十分なのです。分かりやすくいいますと、個別企業にもうちょっと力を与えるということです。例えば、力というは金融面だけではなく、色々なサポートです。それは市の体制も出てきます。色々な人的なサポート、それから産学官のサポート、そのためには市のそういう人材の育成という問題も出てきますが、様々なところに顔が利くような人材をそのセクションに当てて、その企業が望むものをそこでアドバイスするということです。それを平等にやるというのはなかなか無理だろうと思うのです。その辺は意見が分かれるかも知れません。

○小林会長　どうでしょうか？

○清水委員　私は、中小企業家同友会から出席させていただいております。数年間かけて中小企業振興条例が出来たわけですが、今回我々が検討しているビジョンというのは、中小企業振興条例の基本に沿った形でなければならないというふうに思っております。

私は、6月29日の1回目の会議の時に欠席いたしましたが、あの時の資料を、是非もう一度ご検討していただきたいと思います。

あの資料においては、いま大嶋委員がおっしゃったこととはちょっと異なる方針が出ていたと思います。三神さんのおっしゃられたことは、ポイントを絞ることはいいけれども、10年間のビジョンであるから、抜けているものがあってはならない、我々はいま戦術と戦略、両方考えていかなければいけないのではないかということだと思います。

お手元にある資料を見てみると、平成 12 年の統計資料であるとか、本当に知りたいと思った統計資料が検討中ということで出ておりません。それで、是非皆さんにお願いしたいのは、この資料をもう一度検討していただいて、完成していただいてから、もう一度、審議会をお開きいただきたい。このままで、検討会に入ってしまうと、大嶋さんの考え方、三神さんの考え方という 2 つの大きな考え方を絞り込めないうちに入ってしまうのではないか思いますので、是非、もう一度資料をお作りいただきたいと思います。それと、同友会といたしましても、我々政策委員が、数時間にわたって検討させていただきました結果、その一部、小仲委員も発表されましたけども、中小企業家同友会として、いくつか気がついたところがありますので、あとでご連絡をさせていただきたいと思いますので、含めてご検討いただければと思います。

○小林会長　かなり基本的なところで意見が出ておりますけど、いかがでしょうか？

○大嶋委員　私の質疑が悪かったかもしれません。ビジョンの作り方というよりも、私が恐れるのは、ビジョンが作りっぱなしになってしまうので、実際に実行する段階には私はこういうふうにするべきじゃないかということを申し上げたのです。

○清水委員　やや過激な発言でしたけれども、お分かりいただきたいのには、中小企業振興条例ができあがった時に、こんなお話がありました。仏を作りました、これからは魂を作りましょう。まさしく、いま我々はこれから魂を作っていかなきゃいけないと思うのです。ですけども拝見する限りでは、観光ももちろんそうですけれども、ものづくり戦略に走って、じゃあその販売はどうするのだというところは、欠落しているように思うのです。ですから、10 年後のことを考えた時に、もう少し違ったデータ分析等の資料が、我々中小企業として欲しいのです。今日は北洋銀行の方もいらしてますけど、例えば融資をする時に 12 年の統計資料を持っていって一番欲しいデータが抜けていて、これで融資しろと言われても、もう一回やり直しというように、即決即断されると思うんです。

ですから、討議をする前に、事前の準備段階として、何が我々必要かという事をもう一度ご理解いただいて、ご議論いただいた方がよろしいと思うのですけれども、いかがでしょうか？

○大嶋委員　もうちょっとあとで申し上げれば良かったですが、計画は出来上がった段階で、実行するにあたってはこのようにして欲しいという発言をすれば良かったかもしれません。計画を作ることと、ごっちゃにしてお話申し上げてしまった。ただ、私も長い間やってきまして、どうしてもその最初から最後まで、平等にしなければいけないということが頭の中にあり、どうしても総花的なものしか作りようがなくなってしまうものですから、その辺の反省があるものですから、だからやる気のある企業、意欲のある企業をいかにバックアップするのか、意欲のある企業に様々な支援策を重点的にしないとうまくいかないという事が念頭にあるもので、申し上げたのです。

○小林会長　どうぞ。平野委員

○平野委員　私もどちらかというと中小企業のお手伝いしているため、できるだけ幅広く

支援をして欲しいという思いはあるのですが、ただ何をどういうふうに持っていくかというのがスタート段階でちょっとまずかったなと思います。そうは申し上げても、やっぱり札幌がこのようにサービス産業中心になっている状況で、なかなか若手の就業の場が確保できないということを鑑みるとやはりどこか製造業なりものづくりを中心にという思いは間違ってないような気がします。

建設業も逆にものづくりへ入るようなスタンスで広げていくように、アイデアを重要視して進めてほしいという視点で、もう少しこれを最初のスタートに入れてから作りかえればいいものができるんじゃないかというふうに考えます。

ものづくりも色々な製造業とか指定されているのですが、逆に言えば、建設業もこういう中に入って、ものづくりという視点から考え直せば、それほど間違った方向性ではないように思います。

○三神委員　全体像でしっかり固めたいものですから、もう少し質問させていただきます。3つほどあるのですが、ビジョンの策定期間は延長できないのですか。というのは、この場でやる前に、本当はワーキンググループで徹底的に叩いたほうがいいと思うんです。この場でこれだけで集まって、いろいろ話したら色々な意見が出て、1つの線が出てこないと思います。ある程度、素案と言っても具体的なものになっていないと審議会の審議に入れないと私は思います。

先ほど清水さんがおっしゃるようにもう 2 回ぐらい審議会をやって徹底的にやっていかないと、期限があるのであれば間に合わないだろうと。3月に皆さんが出したものを更にまたこれから2時間じゃ足りないという形になると思います。

それからもう 1 つですね、さきほど、大嶋委員がおっしゃったように、ビジョンを作りっぱなしということではいけないのです。これは、10 年先ですから、情勢の変化によってものすごく変わってくると思うのです。それは今の時点で、理想とするものを作っておくことはいいのですけども、それに肉付けをし、かつ最終的に政策に活かしていくというような産業ビジョン推進協議会というような形のものを作るとか、この審議会が責任を持ってしっかりとフォローするという形を最後のところに書いていただいたほうが、しっかりとしたものになるのではないかと思っています。

○小林会長　それでは、ちょっと事務局の方から、いまの意見に対してよろしいでしょうか。

○事務局（井上経済局長）　いま色々とご意見をいただきまして、まずものづくり戦略でございますけども、実施期間として 5 年間を考えております。さきほど、単年度という話があったもので、いまこの場でお話させていただきました。それから、産業振興ビションの策定スケジュールでございますけれども、ここのところは、ものづくり戦略との関係もあるものですから、このスケジュールは変えたくないのです。

それで、いま三神さんからお話がありましたように、この審議会をもう少し回数を増やして開くということがおそらく必要かと思って話を聞いておりました。

それから当然、中小企業振興審議会の委員の皆様には、毎年の予算のご説明をすることになりますので、その中で色々コントールしていただければいいのかと思って今お話を聞いておりました。

答えは以上ですが、今、入口の議論といいますか、全体構成のところで色々と議論がございましたので、その点について言わせていただきますと、そもそもこの産業振興ビジョンを作らなければならないと思ったのは、世の中で政権交代もありましたけども、戦後、最大の転換期を迎えているということが１点です。それから、これまでの北海道、札幌市の発展というエンジンが一つは人口増加で、人口増加があったが故に、いわゆる卸サービスが発展し、札幌市民、あるいは北海道民に色々な物を売ってきて、その利益があったということがあります。

もう一つは公共事業です。当然、建設業です。この 2 つが大きな転換の時期にあるという中で、今後札幌、北海道が、さらに経済発展をしてくためにはどうしたらいいのか、ということを今この段階でじっくり考えてみようということでこの産業振興ビジョンを作ろうということになりました。

それで、今回のものづくり産業の方に随分いっているのではないかというご意見がありましたが、簡単に言うと、公共事業や、人口増加はもう今後なかなか見込めない中で、一体何が札幌、北海道の経済のエンジンになるのかということなのです。そこが当然、他の産業も引っ張るわけです。

人が増えれば、物も売れ、卸・小売も潤ってきます。したがって根っこになるなんらかの産業が必要なのです。これまでと替わる産業が一体なんだろうかと考えるときに、僕らが見えてくるのは、歴史とか風土を考えた場合、食産業を中心とした製造業があると。したがって、その根っこの部分を考えて、その産業の発展によって、他の卸サービスや、あるいは建設業とかも引っ張っていけるのではないかという発想で、こういう構成にしているのです。色々とご意見をいただきたいのですが、全部の産業をというわけにはいかないのです。何か引っ張るものが必要なのです。選択と集中、いまのこの時代、この 10 年間の中で何だろうかということがここに書かれている訳でありまして、それをベースにしまして、当然、経済ですから、全部の産業に発展していくのです。それは当たり前のことです。だからその辺のところの観点で、考えていただけばありがたいと思って聞いておりました。大変失礼いたしました。

〇小林会長　ただいまようなご説明だったのですが、いかがですか？

〇三神委員　産業振興ビジョンについては、審議会の規定に基づいて検討しないといけないと思いました。審議会がフォローするということであれば、中小企業振興条例の中に規定されている審議会の審議項目に入れるか、産業振興ビジョンにうたっておくということをしっかりやっておかないといけないと思いますから、項目に是非入れてください。

〇事務局（渡辺産業振興部長）その点につきましては、これからのご審議をふまえまして、産業振興ビジョンの中に入れておくことも検討させていただきたいと思います。

○小林会長　よろしいですか。他にどうでしょうか。
○池田委員　全体的な分野をどこまで広げるかという中で建設業の話がございました。例えば建設業の何を私たちは求めていかなければならないかということになると思うんですね。例えば寒冷地におけるいろんな技術というものが沢山あるような気がします。そういったもの、産業技術、あるいは道路ですと、融雪の関係で太陽熱を利用した融雪という新しい分野が研究されていますが、北海道で当然先駆的にやるべき事業だと思うのです。建設関係の寒冷地における様々なノウハウと言いますか、そういったものが今後世界に活かせる分野がいっぱいあると私は感じます。そうすると、産業技術分野といいますか、建設業を通した産業技術といいますか、ノウハウといいますか、それを高めるような分野という表現があればいいのかと、それは詰まるところ、ものづくり戦略にいくのかという気がしています。そういった意味で捉えると、きりがないような気がむしろします。
　その中で、食品分野というところに 1 つ大きな視点を置いたということは、やはり強みを活かそうというような意図があるのだと感じられますので、それは非常に良いことだと思います。ですから、それ以外の様々な分野のものについてどう表現したらいいのか、あるいはそれを一括してものづくり分野といいますか、ものづくり産業ビジョンというところにまとめたほうがいいのか。そこのところをちょっとお聞きしたいと思います。
　それがまとまると、この意味はどちらに含まれているというふうな形で表現できるのではないかと思います。
○小仲委員　そういうことであれば、なおのことちょっと現状分析が不足すぎていますよね。どちらかというときちっとした分析がないまま中身をやって、次の審議会が 2 月であれば、各分野少なくとも現状の生の声を聞いていただきたいという思いが強いです。
　前の条例の時にも申し上げたのですが、ワーキンググループ的なものをお作りいただいてもっと現状に沿った分析なり、あるいは、今後の 10 年間を見据えたビジョン作りが大切なんだと思います。どうもおざなりでさっき大嶋委員も言っていたように、どこかで役所仕事みたいなという形でどうしてもそこが引っ掛かってしまいます。だからもっとワーキンググループを作って、期間がないのであれば、そういう方たちはたぶん熱心にお集まりいただけるでしょうから、そこを検討していく必要があります。
　例えば広域都市圏の問題にしても、長沼だとか、南幌、岩見沢、美唄、本当の意味での札幌と接点があるような都市が抜けているような気がしてならないのです。広域都市圏にしてももうちょっと拡大して、本当にどこが札幌と密接に繋がっているんだろうと、経済交流があるのだろうと考えた時に、長沼などは外せないような気がします。南幌もそうですよね。そこら辺をもう一度見直していただくとか、そういった細かい分析、ならびに諸問題の調べというのは、やっぱり現場の声を吸い上げてないからだと思うんです。そこをちょっとご検討いただけなければ本当に魂が入ってこないのではないかという気がいたします。
○小林会長　今、全体の構図のところから色々議論、展開されたのですが、池田さんがさ

っきおっしゃられたことは大変重要な点なのですけれども、例えば先の展開のところで、札幌市の産業を目指す姿とか、４章、５章と展開する中で、例えば積雪寒冷地の特性を活かした云々というようなところで、当然、寒冷地住宅だとかは北海道はまさに非常に得意にしていて、その技術力が道外に移出されているという分野がありますね。もちろんそれらの振興という様なことが当然書かれてくる予定になっていると思うのです。

ですから最初の全体像のところで特色をぐっと強く出した様にやはり見えたものですから、そういう議論が出てきたかと思うのですが、おそらく全体の中では今まで言われた事はたぶん含まれてくるだろうと思います。

それからもう一つ、札幌広域都市圏という圏域全体の繋がりに関連した問題というのは否応無しに触れざるを得ないところなのだろうと思うのです。

ここでは問題の課題を整理している段階で、実は札幌の人口も頭打ちであり、北海道全体の人口が減少する中でどうしたらいいかという問題が当然書かれてくる訳で、人口減少にどう対応するか。例えばその中で二地域居住というのがこれから出てくる時に二地域というのは恐らく北海道のどこかと札幌という、そういうイメージだと思うのです。そういうことが実は随所に出てはくるのですが、今そこまで議論が進まない段階でいましたので、何か事務局で、期限の問題と審議会の回数の問題についての考えを明らかにしてほしいと思います。

○事務局（渡辺産業振興部長）　期限の問題につきましては、先ほど局長が申し上げましたように、できる限りこのリミットの中でお考えをいただければと思いますが、ただ回数につきましてはこれから検討させていただきまして、充分審議が尽くせるような回数を重ねてまいりたいと思ってございます。

それと色々お話に出ました資料の関係でございますが、今色々と資料を調査してございまして今月末位でその辺の取りまとめが終わる予定でございますので、まとまり次第、委員の皆様にご提供させていただきたいというふうに思ってございます。よろしくお願いいたします。

○小林会長　よろしいでしょうか。

○三神委員　２章の分析のところで資料を見ていますと、先程清水さんがおっしゃるように域際収支のところで平成 12 年のものを使っているというようなところで、これが現状なのかということが真剣さに欠けたんですけれども、その中で札幌広域都市圏の人口推移という、これは２ページなのですけれども、この辺のところを全部札幌市として捉えているけれども、広域圏の人口を捉えているのかどうかという問題が出てくる訳ですよね。その辺のところをしっかり捉えていかなきゃならないのですけれども、その前に、広域都市圏と言っている市町村に了解は得ているのですか。我々は好き勝手に今のところ言っていますけれども、了解を得ないといけない状態になると思います。それからこの中で、若年層の流出が一番の問題になると思います。結局、働く場所が無いからです。だから産業全体を興すということになってくるのです。それが結果的には高収益を得て、かつ、人口の生

産性、一人当たりの生産性が上がって市の収益・税収が上がるという形のパターンなのですが、ここの分析の中で見た限りでは一番働き盛りの 25 歳から 29 歳、30 歳から 34 歳、このところで合わせると 3,000 人を超える働き手が流出している訳です。合わせると若年層と同じくらいかそれ以上いるはずです。この辺の分析はどうなっているのかという事なのです。若年層 20 歳の給与よりもこの年代の給与のほうが高い訳です。そしてそういうところに少子が増えてくる訳があるのです。こういうところをしっかりと分析の中で捉えてもらいたい。あまりにも大雑把過ぎます。ぜひその辺のところ、これから資料を出して色々なことをやりますが、一つの例として、お願いします。

○小林委員　よろしいでしょうか。２章が大きく分けて現状分析と課題。まさにその課題のところで最も重要なポイントが若年層の人口流出というところにあって、恐らくそこのところで関連するデータが整備されて出せる訳でしょう。本日の段階ではまだ示されていないという事ですから、今、三神さんがおっしゃられたように、同じ若年層の流出と言っても高い所得を得る階層が流出しているというところで、札幌の消費力の全てに跳ね返ってくる訳だから、そういったところの戦略、踏み込んで分析されてくることだと思います。他によろしいでしょうか。

○平野委員　若年層の流出について、必ずしも産業だけの問題でないような気がするので、ここで申し上げるのはどうかと思うのですが、これは福祉と関連するのではないかと思うのです。例えば、子どもの手当てとか、その辺が高齢者福祉とは盛んに言われるのですが子育て世代への支援が札幌市の場合、データを持ち合わせてないのですが、他都市と比べて低いのかなという気もするので、大変恐縮ですがその点をお願いいたします。

○事務局（井上経済局長）　人口流出につきましては、これだけの資料ではなかなか難しいと思いますが、資料は 19 年を示しておりますけれども、17 年くらいから急に流出は増えているのです。主にこの層は男性です。大学を卒業した男性の方が相当札幌市から本州の方に出て行く。これは道内でも札幌に多くの大学が集中していますから、例えば北大なんかは理工系の方が半分以上なのでそういう傾向があるのですけれど、やはり景気の後退に合わせまして実は 19 年に大きく増えている数字なのです。主に増えているのは男性の増加で、今後きちんとした資料を示したいと思います。

○清水委員　人口の問題が出ましたので、流出は出ているのですが、興味がありますのは例えば 10 年後のビジョンを作る時に高齢化はもっと進むと思います。他町村から福祉の関係の方が、結局、他町村が崩壊してきてどんどん、数パーセント以上流入してきています。このことに対して何とか手を打たなければと思うのは、高齢化＝病人ではなくて、未病の方も、その高齢化に対してどう対策を立てるか、そのような方々にも働いてもらいたいのです。仮に我々がものづくり戦略というものを考えるのであればその残っている技量に対してどのように出していただくか、その為にもぜひ流入人口をお教えいただきたいと思っています。未病の方の割合も教えていただければと思います。未病というのは特に政府の担当の方は良く熟知していらっしゃいます。本当に社会的入院なのかあるいはそうではな

くて、いるところがないからなのか、この辺についても予算の流出について検討していただきたいと思います。
○小林会長　よろしいですか。
○事務局（渡辺産業振興部長）　今のお話の趣旨はわかりまして、できる限りの資料の提供はさせていただきたいと存じますけれども、保健福祉行政のほうにかなり踏み込んだ話になっていくかもしれません。我々は今、社会福祉とかではなく、産業振興ビジョンを策定するという観点ですので、少なくともそういった観点の中での話し合いということで、申し訳ございませんがその辺をご理解いただきたいというふうに思っています。
○清水委員　ただ、流出がありましたので流入も･･･
○事務局（渡辺産業振興部長）　ええ、もちろん資料としては可能な限りご提供させていただきます。よろしくお願いします。
○小林会長　よろしいでしょうか。もちろん過去に蓄積された技術をいかに活かすかと言う様な流入人口ですね、もちろんそういう視点での課題は産業振興と密接に繋がりますから、そのような分析は当然だろうと思います。かなり活発に議論いただきましたけれども、最初に提起された全体像のところで、意見が分かれた訳ではないけれども、論争になりましたが、それも含めてもう一度事務局の方で論点を整理していただいて次回にまた出していただきたいと思います。
○事務局（渡辺産業振興部長）　先程ちょっとお話させていただきました通り、まとまり次第早急にご審議の機会を改めてご相談させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。
○小林会長　よろしいでしょうか。相当活発な議論になってきたので、ここまでのところで最初の議題に関しては以上にさせていただきまして、次の議題に移らせていただきます。
○三神委員　ちょっと待って下さい。５章は全然検討してないのではないですか。
○小林会長　もう少し資料が整理できた段階で、行うべきではないでしょうか。骨子案の、今は２章の始めのほうに少し入ったところに過ぎないので、あと３章、４章、５章とありますので、これはあと１回位かけてやらないといけないのではないでしょうか。1 時間やそこらではちょっと無理ではないでしょうか。
○三神委員　今の２の議題はどれくらい所要時間かかるのですか。
○事務局（渡辺産業振興部長）　２につきましては１時間を予定しているところでございます。
○三神委員　それでは私から意見だけ述べさせていただきます。色々ありますけど５章の 1 の社会情勢の変化に対応するという中で、４番目に入るのかどうかわからないのですけれども、全体の中で技術というのがないのです。売るということだけに見えるのです。技術開発というものにもっと重きを置いていかなければならないのではないかなと思います。大学がこれだけあって産学官連携をやるっていう話もあるのですけれども、いずれにしてもそういう技術的なものを我々はやらなければと思います。例えば少し離れ過ぎてしまう

かもしれませんけれども、10 年後なので離れてもいいものだと思いますけれども、海洋開発だとか宇宙開発だとか、環境関連の技術分野の開発というか促進とかいうようなことをもっとうたうべきではないかと思うのです。それからデザイン産業では、公立大学もありますけれども、こういう産業の振興とかいうようなことは謳われていいのではないかと思うのです。

１は総論ですよね。２に入ると北海道の云々と各論に入るわけです。私はそのように見たのですが、総論の中でもう一つは、問題解決型のロボット開発も、ものづくりの中では重要な課題になってくると思うのです。と言うのはこれも高齢化の進展を背景に、介護ロボットとか福祉ロボットとかいう様なものを札幌の特徴としてできないのか、という事が出てきていいのではないかと思うのです。もう少しその辺のところまで飛躍していいのではないかと、現状をあまりに見すぎているのではないかと感じているのです。

それから 2 のほうの 7 つまでは良いとしまして、各論のところでやはり８番目に環境開発分野をやっていかないと CO2 削減の問題やら様々な問題は避けて通れないと思うのです。この辺のところをどう捉えるか。それから９番目に札幌ファッションですが、札幌らしさというような点で、風土や道産の素材を活かしたものづくりを行うことが重要だと思います。札幌ファッションについては、女性の着物でも男性の物でもそういう繊維業界がいろいろ開発できると思います。それから先を言いますと 10 番目にはデザインの問題をここで捉えていく、デザインというものはものすごく広くあると思うのですが都市のデザインとして大きく一つ、観光を札幌が重点項目とするならば札幌のデザインをしっかりやっていかなかったら観光はできないと思うのです。その辺のところを含めてこの住環境とか産業都市とか観光都市とかこういう項目に対してデザインをもっと活かしていくというものを入れてもらったらどうかと思いました。以上です。

○小林会長　はい、現在事務局では何かありますか、例えば具体的なものづくり戦略という課題と重なっている部分が沢山あると思います。

○事務局（渡辺産業振興部長）　次の議題となるものづくり振興戦略をこれからご審議いただくことになろうかと思いますけれども、その中との関連もあろうかと思いますし、また 10 年後のビジョンという事ではございますが、やはり札幌の現在の持つ強みというものも見据えながらある程度 10 年後のビジョンも語っていかなければならない部分もあろうかと思いますので、その辺を感じながらご議論をいただければと思っております。

○小林会長　よろしいでしょうか。一方で産業振興ビジョンという課題が今あって、具体的にものづくり戦略というのがあって、様々な課題の位置づけや繋がりが私どもの方でも整理されていなかったというのがございますが、徐々に明確になっていくと思います。それでは先ほど申しましたように、骨子案自体は第５章までとなっているのですが、その後の方はまだ具体化した段階での議論になっておりませんので、これからのスケジュールに関係しますけれども、もうちょっと詰めた議論をした段階でさらにまとまると思います。そういう方向でよろしいですか。

○事務局（井上経済局長）　今日の議論をお聞きしておりまして、やはり資料の説明からもう１回やったほうがいいかなというふうに思ったものですから、もう少し資料がきちんとできあがった段階で資料説明も含めて長めの時間を、２度３度で申し訳ないのですが取ったほうがいいかなというふうに考えてございます。
○小林会長　ということですので、よろしいでしょうか。ではそのように進めさせていただくことにいたしましょう。それでは次の議題に移らせていただきます。それはものづくり振興戦略で、これについて諮問されている訳です。事務局から説明願います。
○事務局（渡辺産業振興部長）　それではものづくり振興戦略の諮問について説明をさせていただきます。今ご審議いただきました産業振興ビジョンの中の一つの分野の、いわゆるアクションプランとしてものづくり振興戦略の策定をお願いしようというふうに考えてございますが、ものづくり振興戦略そのものは製造業をはじめとするものづくり産業が外需獲得に効果があり雇用の創出にも大きく、他の産業、経済への波及効果が高いということもございまして、札幌の経済を活性化する上では重要であるというふうに考えているところでございます。そういった意味で札幌のものづくり産業につきまして産業振興ビジョンで示された施策の方向性を実施レベルの計画として策定をしていただくために、市長から本審議会に諮問をさせていただくものでございます。それでは市長からの諮問文を井上経済局長から読み上げさせていただきたいと存じますので、大変恐れ入りますが小林会長、ご起立でお受けいただきたいと存じます。
○事務局（井上経済局長）　それでは市長からの諮問文につきまして読ませていただきたいと思います。本市のものづくり産業の振興のあり方について。諮問。
　近年、少子高齢化や環境問題といった社会環境の変化や人口の将来的な減少、公共事業費の縮減など本市を取り巻く環境は急激に変化しております。本市では、こうした状況の中で本市経済が持続的に発展していくために、経済の活性化に向けて中長期的に取り組むべき総合的な経済施策の方向性を明らかにする「札幌市産業振興ビジョン」の策定について、現在作業を進めているところです。本ビジョン策定において、札幌が足腰の強い地域経済を確立して北海道の牽引役となっていくためには、外需型産業の育成と域内経済循環の促進が必要であり、雇用創出効果が大きく、また、他産業への経済波及効果が高い製造業などのものづくり産業の振興が大変重要であると考えております。札幌は資源や一次産品に恵まれた北海道の中心都市として、周辺には空港や港湾、高速道路などのインフラも整い、大学や公設の試験場も多く、優秀な人材も集積しています。本市の製造業は、他の政令指定都市に比べて集積が少なく、百年に一度の経済危機と呼ばれる状況の中、公共事業の削減や厳しい価格競争による売上高の減少など、厳しい経営環境にありますが、食品製造分野では大きな強みを持っており、また、知の集積を活かしたIT産業の発展、そしてバイオやデジタルコンテンツといった新しい産業も育ってきているところです。本市において、北海道や札幌の持つ強みを活かし、ものづくり産業を中長期的な視点で振興を図っていく必要があると考え、札幌市中小企業振興条例に基づき、本市のものづくり産業の振

興のあり方について貴審議会へ諮問いたします。以上でございます。
○事務局（渡辺産業振興部長）　小林会長、ありがとうございます。ご着席をお願いいたします。諮問文の本書につきましては、後ほど小林会長にお渡しさせていただきたいと思ってございます。それでは小林会長、審議会の進行の程、よろしくお願いいたします。
○小林会長　はい、それでは諮問がありましたので、本審議会におきまして、ものづくり産業戦略の策定を行ってまいりますが、いつまでに策定するという目処はありますでしょうか。
○事務局（渡辺産業振興部長）　来年の８月に審議会を開催いたしまして、市長に最終的に答申をいただきたいというふうに考えているところでございます。その後、市民の方々へのパブリックコメントなどを経まして、来年 12 月には本戦略を発表いたしたいというふうに考えているところです。
○小林委員　ただ今の諮問を受けた件につきまして、検討に入る訳ですが、検討の進め方について事務局から何かご提案はありますか。
○事務局（渡辺産業振興部長）　はい。大変恐縮でございますが、事務局といたしまして案を持っていますので、委員の皆様のお手元にその案を配布させていただきたいと存じます。
　ただ今お配りいたしました案でございますけれども、検討会の設置をさせていただきまして、検討委員の方 6 名程度の方をお選びいただきましてご審議いただきたいと考えています。
○小林会長　はい。今ものづくり振興戦略に向けた検討会の設置について、事務局の案が配布されましたが、本審議会の委員から６名程度の検討委員を選出して検討会を設置する。検討会は本審議会のときに報告し、最終的にこの審議会全体としての方向性を定め、答申案を策定する。こういった順序ですね。今の事務局の案についてはどうでしょうか。
○大嶋委員　委員の選定はどうするのか。今日出席のメンバーに製造業の方もおられるようですので、その辺は会長に一任という事でどうでしょうか。
○小林委員　いかがでしょうか。中小企業者の方を中心に検討会を設置して、そこで検討した結果を報告していただいて最終的な諮問への答えをこの審議会としてまとめていくという方向でいきたいと思いますが、検討委員の選定に関しては会長である私に一任というご意見がありましたが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。（異議なしという声）はい。それではそうさせていただきます。それで、検討委員の方で何度か検討を重ねて適宜、審議会に報告していただくということで進めさせていただきたいと思います。それでは中小企業経営者を中心にして検討会を設置していきたいと思います。それでは名前を読み上げますのでよろしくお願いしたいと思います。平本委員、池田委員、松本委員、三箇委員、山下委員、平野委員、以上の 6 人の方にお願いしたいと思います。座長は平本委員にお願いしたいと思います。
　委員の方は大変だと思います。場合によっては回数を多く重ねることになるかも分かり

ませんがよろしくお願いします。松本委員につきましては本日欠席ですが、検討会委員の就任につきましては、事務局から説明をお願いいたします。

それでは、お手元の資料につきまして、事務局から説明をお願いします。

○事務局（平木ものづくり支援担当課長）　ものづくり支援担当課長の平木です。よろしくお願いします。

お手元に資料４として、「札幌市ものづくり振興戦略　ものづくり産業の現状と施策」ということで、この資料について 15 分くらいで説明をいたしたいと思います。説明は座ってさせていただきます。

まず、最初のページの下の段に「ものづくり振興戦略のねらい」というページがあります。ビジョンの中でもいろいろと触れられておりますが、札幌市の人口減であるとか、公共工事の減というものを踏まえまして、外需獲得効果、雇用効果、経済波及効果が高いものづくり産業の振興が必要ということで、ものづくり振興戦略を産業振興ビジョンのアクションプラン、実施計画として策定をしたいということで、ただいま市長から諮問したところであります。

めくっていただきまして２ページ目、「国や道におけるものづくり産業への取り組み」というページであります。国の方では、ものづくり国家戦略ということで、ものづくりの技術ということに注目をしておりまして、中小企業のものづくり基盤技術の高度化に関する法律というような法律を作って、振興しようとしております。北海道については、「ほっかいどう未来創造プラン」という計画がありまして、その中で食、観光など８つの戦略を定めております。その中の一つとして、ものづくり産業振興戦略を設けております。この戦略では、企業誘致の促進や、食などの資源を活かした地域密着型産業の振興、自動車産業への地場企業の参入促進を行うということで、対象分野は製造業ということで、規定をしております。次に、札幌市のものづくり振興戦略とあります。これは、産業振興ビジョンの実施計画として作るものです。期限は、概ね５年間。23 年度から５年間を考えております。５年間とした理由については、現在の社会情勢や経済情勢、技術を基盤とした実施計画になりますので、だいたい５年が適当かなということで、５年ということで考えております。また、技術開発に限定するものではなく、技術の開発から販路拡大まで、作って売るまでということを対象として、振興戦略を立てたいというふうに考えております。また、対象分野については、製造業に加えまして、札幌に成長の基盤があって、今後も適当な施策を行うことによって成長が見込めるバイオ、IT、コンテンツという３つを加えた、この４つを対象分野というふうに考えております。さらに、バイオ、IT、コンテンツの他に製造業からいくつかの業種を選んで、重点分野として振興戦略を具体的に考えていきたいと思っております。製造業、バイオ、IT、コンテンツに対する一般的な施策についてもご検討いただきたいと思います。また、これらについて厚みを増す必要がありますので、企業誘致という点についても、どのように進めたらよいかということについてのご意見を伺いたいと考えております。

３ページ、下の方になりますが、他の政令市の取組とありますが、大阪市については、製造業・IT・デザイン等含めた「ものづくり再生プラン」という形で作っております。北九州市については、製造業の中に技術と特許という項目を設けて、「北九州市モノづくり産業振興プラン」という形で計画を策定しております。

次のページ、４ページになりますが、４－１製造業の状況ということであります。これ以下については、今の製造業、IT、バイオ、コンテンツについて、どのような現状にあるか、そして今札幌市がどのような施策を行っているかということについて、説明をいたします。

まず製造業になりますが、製造業について多い業種は、食料品製造業、印刷関連業、金属・機械となっています。この３業種によって従業者数が約８割、工場出荷額、付加価値額では 75%を占めているという状況になります。

下の段、製造業の状況になりますが、15 年から 19 年、まだ景気の比較的良いときですけれども、これを全国と市を比べてみますと、全国はやはりかなり伸びている、札幌市はほぼ横ばい、道は全国と札幌市の中間くらいという数字になっています。事業所数はやはり全般的に減っているという状況になります。

次のページを見ていただきますと、６ページになりますが、15 年と 19 年を比べてどういう業種が伸びているかということであります。特に鉄鋼業とか食料品製造業というのが伸びており、鉄鋼業や化学については事業所数も伸びておりますので、伸びた理由というのはそこにあるかなと思います。

下の７ページであります。平成 19 年に札幌市製造業実態調査というものを札幌市で行っております。そこの結果でありますが、市内製造業の自社の強みとして挙がっているのは技術・加工精度、納期の短さ、企画力です。札幌市に望む支援については、資金調達、製品開発、販路・市場の確保が上位として挙がっております。

次のページ、８ページになりますが、製造業に対する札幌市の施策とあります。緑の網掛けで書いてありますが、ものづくり産業活性化支援事業というものを平成 19 年から行っておりまして、新製品の開発やネットワークの構築、人材育成ということで行っております。また、食品産業開発支援事業ということで、平成 17 年度から加工食品の企画や食に関する新技術開発への支援ということを行っております。

９ページですが、IT・コンテンツになります。IT については、昭和 61 年にテクノパークを分譲開始して、エレクトロニクスセンターを設置して以降、札幌市が力を入れてきた分野であります。売上が平成 19 年度で約 3,700 億ということで、札幌の基幹産業になってきました。コンテンツは幅広く、映像、アニメ、それから放送局まで含まれた、かなり幅広い数字をとって、今のところ同じ 3,700 億円程度になってきております。札幌市については、特に映像関係に力を入れた施策を行ってきているところです。

次のページ、10 ページになりますが、IT 産業に対する施策としては、一番上に高度情報通信人材育成・活用事業ということで、人材育成の部分を行っております。それから新分

野進出と書いてありますが、SaaS 等関連技術者支援事業ということで、このようなことを主な事業として支援を行っております。

下のページ、１１ページですが、コンテンツ産業に対する現在の施策ということで、札幌市デジタル創造プラザ、ICC と言っておりますが、それを平成 13 年度に開設しております。二番目の映像関連産業基盤整備の真ん中にあります、札幌国際短編映画祭という事業を実施しておりまして、映像に関する支援というものを行っているところです。

めくっていただきまして 12 ページになりますが、バイオ産業ですが、売上高については、平成 11 年から平成 20 年まで並べておりますが、企業数も伸びております。また、売上も約 2.6 倍になっておりますので、順調に伸びている分野と言えると思います。バイオ産業については、一番上に書いておりますが、北大ビジネス・スプリングということで、インキュベーション施設ができておりますので、そこに対する支援を行っております。それからバイオについては化粧品であるとか機能性食品、それから医薬品という大きく分ければ２つに分かれるかと思うのですが、それらについて販路拡大として、ビジネスマッチングというものをこれまで札幌や関西で開催してきております。

次のページになりますが、14 ページです。全体的に創業や資金に対する施策として、さっぽろベンチャー支援、農商工連携ファンドというものを 21 年度に作って、支援を行っております。

15 ページからは工場立地ということで、企業誘致の資料になっております。これが道と道央圏、石狩、ということで棒グラフを作っております。道央圏というのは、石狩、空知、後志、胆振、日高という５支庁なのですが、やはりこの５支庁に道内のだいたい６割から７割が立地しており、その中でも石狩支庁に工場が立地する割合が高いということがグラフになっております。

16 ページでありますが、今札幌市の工業向け未利用地というのが、工場適地と呼んでいる工場や倉庫以外建たない工業団地、工業専用地域など 37 ヘクタール、それから工場も建ちますが店舗・住宅も可能という準工業地域が 63 ヘクタールということで、まだ未利用の土地が 100 ヘクタール程度あります。その他に、今区画整理を行っている東雁来第２区画整理事業から札幌市の分譲用地として将来的には 10 ヘクタール程度出てくる予定になっています。その他に、テクノパークやアートヴィレッジで、まだ残区画数があります。

企業誘致に関する施策については、ものづくり産業誘致促進補助金というのを 21 年度に創設しております。また、企業誘致については、広域連携ということで石狩市と連携をするということで、やっていこうという体制になっております。

次の２ページについては、北海道、札幌市、札幌広域都市圏が持つポテンシャルというものを書いております。これは、18 ページで言うと、農林水産資源、観光資源、人材、それから札幌の都市イメージ、寒冷という気候もポテンシャルになるということを書いております。19 ページでは、豊富な農林水産資源があるという数値が書いてあります。

札幌広域都市圏が持つポテンシャルについては、北海道の持つポテンシャルの他に、や

はり知の集積ということで、大学や試験研究機関が多いということが大きなポテンシャルになります。最後の 21 ページに書いておりますが、大学が圏内で言うと 24 校、公設の試験研究機関としては、北海道立工業試験場であるとか北海道立食品加工センターのようなものがありまして、研究開発を支えてくれるという大きなポテンシャルがあるということで資料を作っております。資料の説明は以上であります。

○小林会長　ありがとうございました。ものづくり振興戦略について、ただいま説明のあった資料も含めて、委員のみなさんからご意見いただきたいと思います。何かございますか。

○三神委員　企業向けの用地は、私もメーカーを呼んでやろうとしたけど敷地が足りなくて、結局札幌市ではなく他のところへ行ってしまった。そういう規模の中堅のメーカーを誘致しても用地がないような状態になっていることが一つと、テクノパークなどには限定された IT くらいしか入れないというように、転用ができない状態に絞りこんでしまうと、結局空いてしまって遊んでいる土地になってしまうような感じとなって、ずっと待っていなければならない。それから大手が買い占めてしまっているような土地の状況になっているように見える。このへんのところの解決をしっかりやらないと、地場の産業が結局大きくなって工場など増設していくとか、新しいものを作り上げていくという形になったときにそれだけの用意をしておかなければできない状態にもなるのではないかと、これを見て感じたのですが、どうですか。

○事務局（渡辺産業振興部長）　まず、用地がないというお話ございました。こういったことにつきましては、既存の工業団地についても空き地が生じるような動きが日々ありますので、そういった情報を私どもも把握しまして、これらの情報提供をするということを今後から対応するような考えでおります。適宜そういったことについては、情報をリニューアルしながらご提供差し上げて、企業の俊敏な動きに的確に対応できるような情報提供をしていきたいと思っております。また、札幌市だけではなく、近隣の例えば石狩湾新港地区とか、そういったところの企業立地に関しましても、石狩市との連携という形で今年度に協定も交わしているところでございますので、そういった意味で情報提供し合いながら、企業の活発な活動にご支援申し上げたいと思っております。

　また、テクノパーク等につきましても、今は一区画を対象としているところでございますが、こちらにつきましても同様の形で、用地の提供情報というのは適宜行っていきたいと思っております。

○小林会長　他にいかがですか。

○三箇委員　ものづくりは人づくりというか、一長一短に物販業と違って、簡単にはいかないわけです。振興にあたって、人づくりの部分、教育でしょうけれども、このへんのところはどういう具合に考えておられますか。

○事務局（渡辺産業振興部長）　三箇委員からご指摘のあった、製造業部分のものづくりの技術の部分に関しては、札幌市も非常に重要な部分と考えております。現在でもそうい

った「技術の継承」の部分、最近は団塊の世代の大量退職といった問題も出てきておりますので、今まで習得されてきた技術を後継の方にいかに継続していくかが重要かと考えております。現在の支援体制の中でも、そういった技術の伝承に関しましては、人材育成等を行い、対処していきたいと考えております。今後も重点的に取り組んでいかなければならないと思っているところでございます。

○三箇委員　リタイアされている 60 歳以上の人々の人材的な内容ですが、知的内容の人材バンクなどは存在するが、実際にものを作り出すというか、技術的な部分、職人という方たちの人材バンクが必要ではないか、と考えております。

○三神委員　ドイツのマイスター制のような制度を札幌市に導入し一つの目標にすると、技術者の意識が違ってくるように思われます。ただ、教育を受けたのではなく、訓練された結果、このような札幌の認定を受けた、技術者のプライドを持てるような制度を作られるといいと思います。

○大嶋委員　「ものづくり」だけではなくて、「人材育成」、「人材のネットワーク」という観点から必要だと思います。また、製造業という全体の産業振興という観点から人材育成が必要と考えます。本審議会の資料（案）の中にあるので、その中でどのように進めていくかが課題だろうと思います。

○大味委員　企業誘致と書いてありますが、現実問題として企業を札幌市に誘致することは難しいと思います。そういった意味で、違った観点から東京や名古屋などの企業との事業連携という視点で行っていくという発想も重要となっていくと思います。

○池田委員　「ものづくり産業」という言葉も、深い意味があり、どのように捉えていいのか非常に難しく感じます。当然、人材育成や地域の魅力という観点も含まれていかなければならない。昔でいう、「ハイクオリティオブライフ、 質の高い生活」という基盤の中にものづくりが生まれてくるということを、考えていかなければならないと思います。

「郷土力」、「郷土を愛する力」を醸成していかなければならないと思います。行政側へのお願いにもなりますが、企業側も「郷土力」を念頭において、ものづくりにかかわって進めていくと技術の集積となり、さらに魅力が高まっていく、このような位置づけとなっていくと思います。

「ものづくり産業」という言葉は、多分野にわたり、奥が深いと感じられます。どこから進めていって、どのように入っていくか、この審議会でも議論していただき、ビジョンを推進していきたい。ついては、次回からどのような視点で「ものづくり産業」に取り組んでいったらいいか、と議論を進めていきたい。「ものづくり産業」に限らず、その周辺のことも踏まえて、ご示唆いただき、ご協力いただければありがたい。総合戦力を身に付けるように考えていければいいなと思います。

○平本委員　質問ですが、まず、対象分野が４つ掲げられていて、「IT、バイオ、コンテンツ」はイメージがつくが、「製造業」は、その中でもいくつか分野をピックアップしているというものの、あまりにも大きすぎるのではないでしょうか。

先ほど検討会の委員にご指名いただきましたが、検討内容も検討委員会におまかせいただけるのか、ターゲットがあるのか、ということをお聞きしたい。

もう一点、期間が 5 年となっておりますので、極めて具体的になると思います。先ほどお話に出たマイスター制などとなるともっと長期間の時間が必要な話になると思うのですが、どの辺をゴールとした戦略を立てるのかお教えいただきたい。

○事務局（渡辺産業振興部長）対象分野としては、一つの案としてお示ししています。冒頭に、産業振興ビジョンの説明をさせていただいたとおり、札幌市の製造業そのものは、産業構造上は、層が薄い分野となっておりまして、広く札幌広域都市圏として捉えていきたいと思っております。また、付随する分野であるバイオ、IT、コンテンツといった関連分野を含めたものづくり産業と広く捉えていただきたいと思っております。しかし、これにもとらわれずに検討会の中でご議論いただきたいと考えております。

期間については、ビジョン自体は、10 年という期間で理念的なものにならざるをえませんが、ものづくり振興戦略は、ビジョンのアクションプランという位置づけです。具体性のある形で、できるかどうかわかりませんが、定量的な目標的なものも持つ必要があるかと思っております。大変であると思いますが、こういった点を踏まえてご議論いただければと思います。

○柴田委員　金融という立場からの感想を述べます。「ものづくり」というのは非常に大切だと思います。良い技術や商品といったインフラをいかに産業化するか、事業化するかという問題、また、良い技術や商品はもっているが、後継者がいないという後継者不足の問題があります。また、資金出資という問題があります。地域の実情を考えると余力がなくなってきているため、出し手が少ないのが現状です。ベンチャーファンドというものも出てきてはいるものの、資金力という問題があります。この審議会だけで議論するものではないとは思いますが、公の政策、場で議論することが必要だと思います。リスクマネーを取り入れて、どんどん技術力を産業化していく、ファンドのような資本で底上げしていくのが重要だと考えます。技術はあるけども事業化できないなどの問題があるため、インフラ整備が非常に重要だと思います。

○大嶋委員　今、柴田委員の発言のように個別企業の事情を踏まえた補助金を利用していくようなコーディネート力を高めていくことが重要です。そのような支援体制を整備していくことが課題となっていくと思われます。行政側も横断的にやる気のある企業を応援していくのが重要だと思います。紙にまとめるだけでなく、実際の支援体制を整えていくことが重要だと思います。

○三神委員　この資料の中に「IT 人材雇用サポート」など色々な支援体制が書かれているが、活用頻度はどのようになっているのでしょうか。既に実施されて２～３年経過しているが、実際使われているか、どのような形で使われているのか、この反省点を踏まえてビジョンを策定していけば、プログラムが大きく違ってくると思われます。

政府による支援プログラムはたくさんあるが、使いきれていない。企業の経営者はたく

さんありすぎて何をどのように使ったらいいかわからない状態です。今既存の制度の分析は重要になってくると思うので、ぜひ行ってもらいたいです。

また、先ほどの資料の中で「産業振興ビジョンのヒアリングとアンケートを行う」となっていたが、アンケートはどのように行っているのかお聞きしたいのですが。

○事務局（角田経済企画課長）ヒアリングとアンケート調査は、札幌市内と市外の企業をそれぞれ抽出し、現状をお聞きするということと、例えば、道外企業に対して、札幌に進出の意向の有無、その際の課題は何かというようなこと、逆に札幌から撤退した企業についてはどのような点が問題であったかも含めて、道内外の企業に対して、アンケート調査やヒアリング調査を行い、札幌の強みと弱みについて抽出できるような形で進めております。アンケートについては 12 月中に結果をまとめる予定となっています。

○三神委員　ということは、結果が出るまで次の審議会を開けないということになるのではないでしょうか。

○事務局（角田経済企画課長）　アンケートとヒアリングの結果、進捗状況を確認しまして、極力早めに集計分析をして、何とか審議会が 12 月中に開催できるように調整させていただきたいと思います。

○小林会長　色々ご議論いただいた上、アイデアも出され、時間も超過したので、以上で審議会を閉会します。事務局にお返しします。

３．　閉会

○事務局（井上経済局長）　本日は長時間に渡りまして、ご審議いただき、大変ありがとうございました。今日いただいたご意見を踏まえながら「産業策定ビジョン」について策定を進めてまいたいと考えております。

今日のご意見を伺っていましても、札幌、北海道の経済状況が非常に厳しいということと、その裏返しに新しい方向性を目指すために、我々の産業振興ビジョンに対する期待も高いと認識しました。期待にお応えできるよう、なるべく良いものを作り上げていきたいと考えております。

今後は、資料説明についても各委員の方と更に密におこなっていきたいと考えている次第でありますので、今後ともよろしくお願いいたします。

本日諮問させていただきました、「ものづくり振興戦略」につきましては、新たに検討委員会で議論を重ねていくことになりました。お忙しいなか申し訳ございませんが、委員に任命された皆様には、ご検討の程よろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

以上